

2020年度 事業報告書(案)

自 2020年4月1日

至 2021年3月31日

2020年度5つのトピクス

1. d-lab2020（第38回全研）は、沖縄 NGO センターと実行委員会との共催で4日間のオンライン開催！「ぬちどう宝（命こそ宝）を育む教育」をテーマに行い、計183名が参加し、熱く議論しました。
2. 教材『プラスチックごみ』作成のための費用をクラウドファンディングで募りました。200名の方から約107万円のご協力をいただき、教材も無事発行できました。
3. グローバルエクスプレス教材『新型コロナウイルス感染症とわたしたち』を発行しました。1,200件のダウンロードがあり、実施レポートも複数届きました。
4. 開発教育のファシリテーションについて考える「開発教育ファシリテーション講座」をオンラインで開催し、今後の議論・研究の土台をつくることができました。
5. SDGsの理念や価値に基づいた学習をすすめることを目的に『SDGs学習のつくりかた：開発教育実践ハンドブックⅡ』を発行しました。また、プランテーション・ウオッチと共同で、『パーム油のはなし2－知る・考える・やってみる！熱帯林とわたしたち』を発行しました。



もくじ

事業の概要

- | | |
|------------------------|----|
| 1. はじめに～2020年度をふりかえって | 2 |
| 2. 各種事業報告 | |
| Ⅰ. ネットワーク事業 | 3 |
| Ⅱ. 実践・研究事業 | 4 |
| Ⅲ. 情報・出版事業 | 5 |
| Ⅳ. 人材育成事業 | 7 |
| Ⅴ. 政策提言事業 | 8 |
| Ⅵ. その他の事業 | 9 |
| 3. 組織運営に関する報告 | |
| 1) 会報「DEAR ニュース」の編集・発行 | 10 |
| 2) サポーターの募集 | 10 |
| 3) クラウドファンディングの実施 | 10 |



新教材『プラスチックごみ』を発行しました

処務の概要

- | | |
|--------------------------|----|
| 1. 会員に関する事項 | 11 |
| 2. 役員に関する事項 | 11 |
| 3. 会員総会に関する事項 | 11 |
| 4. 理事会に関する事項 | 12 |
| 5. 評議員会に関する事項 | 12 |
| 6. 2019年度事業評価・2020年度計画会議 | 12 |
| 7. 理事合同合宿（R-CAMP） | 12 |
| 8. 各種委員会に関する事項 | 13 |
| 9. プロジェクト・チームに関する事項 | 13 |
| 10. 職員に関する事項 | 13 |
| 11. インターン・ボランティアに関する事項 | 14 |
| 12. 会員団体に関する事項 | 14 |



d-lab（ディー・ラボ）はオンラインで開催

資料編

- | | |
|-----------------------|----|
| 資料 1. メディア掲載・取材協力など | 14 |
| 資料 2. 名義後援・協力の実績一覧 | 16 |
| 資料 3. 他団体への賛同・協賛の実績一覧 | 16 |
| 資料 4. 講師派遣の実績一覧 | 17 |



『SDGs 学習のつくりかた』を発行しました

1. はじめに ～ 2020年度をふりかえって

社会の大きな動きの中で

2019 年末に発生した新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の影響は地球規模で蔓延し、私たちの生活を脅かしています。感染症がグローバルに広がる背景には、加速化する人や物の移動、経済活動による熱帯林の破壊や、エネルギーの大量消費による開発や環境の問題があるといわれます。そして、もっとも社会的に弱い立場に置かれている人たちが大きな影響を受けています。

国連開発計画(UNDP)は、COVID-19 の影響により、世界の教育・健康・生活水準を総合した尺度である人間開発指数が、1990 年の統計開始以来、初めて低下するおそれがあると警告しました。

COVID-19 は、もともとあった貧困や格差をより可視化し、教育格差やジェンダー不平等などの不公正な現状を露呈しました。

国内においても貧困や経済格差、教育や生活、健康の保障は大きな課題になっています。これまで通りに経済を優先し、環境や資源、労働力の搾取を前提とした社会ではなく、人権が尊重され、多様性が保障された公正で持続可能な社会づくりが求められています。

そのために、開発教育はどのような役割を果たせるのでしょうか。

持続可能な開発目標(SDGs)が目指す「誰一人取り残さない」状況をつくるためには、今までの経済や社会の構造や教育のあり方自体を見直し、地域や環境、様々な当事者の立場で、どのような社会にしたいのか、そのためには何ができるのか、を考え、学ぶことが重要です。

一人ひとりが公正で持続可能な社会をつくるために学び、変化を起こす主体となるよう、開発教育の学びは益々重要になっています。

今年度は、COVID-19 感染拡大防止のために「新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン」を作成し、職員は在宅勤務に切り替え、業務を止めずに行うことができました。様々な事業は全てオンラインで実施した結果、全国各地、また海外からの参加者も多く迎えることができました。

対面の事業の効果は認めつつも、教育の機会を保つためにも、オンラインでの事業も試行錯誤をしな

がら行いました。

また、COVID-19 に関する政府や自治体の助成金や給付金等を積極的に取得し、継続的な組織運営に活用しました。

中期計画の実施

2021年度は、「2019～2021年度中期計画」2年目の年となりました。

<2019-2021 中期重点方針>

1. 開発教育の実践者を支援し、かつ増やします
2. 2030 アジェンダ/SDGs を深く理解し、持続可能な社会を実現するための学習を推進します
3. 地域の開発課題に向きあい、持続可能な地域づくりのための教育を支援します
4. 教育政策に関する提言を行います
5. 組織基盤の強化をはかります

重点方針1では、様々な教育現場において、より公正で持続可能な社会をつくるための教育活動に継続的に取り組む実践者を増やしていくことを目指しています。2020年度は COVID-19 感染拡大防止のために、全ての事業をオンライン化し、すすめました。

開発教育ファシリテーション講座では、参加者が自分のファシリテーションを振り返り、自分なりのファシリテーションを考えることができました。多くの参加者が次の講座の担い手として手を挙げてくださっています。また、d-lab(開発教育全国研究集会)は、沖縄の実行委員会と沖縄 NGO センター(ONC)とともに協議や経験交流を重ね、4日間オンラインで実施しました。実行委員会のメンバーが、自らファシリテーターを務めよりよい実践をすすめることができました。

重点方針2では、SDGsの背景や本質を深く理解するための学習ツールや出版物を作成し、学びを進めていくことを目指しています。「SDGs研究会」では、テーマを構造的に理解し、開発教育的な観点でSDGsを学ぶ方法を提案した『SDGs学習のつくりかた 開発教育ハンドブックⅡ』を作成・発行することができました。

重点方針3については、地域づくりのための教育活動を支援することを目指しています。学びあいフォーラムや交流会をオンラインで行い、今までの学びあいフォーラムの参加者より、地域づくりにおける

学びあいの実践や経験の交流、共有をすることができました。COVID-19 感染拡大防止のため直接地域に赴くことはできませんでしたが、オンラインで全国の参加者とつながることができました。

重点方針4では、ESD や SDG4を中心とした政策提言活動をすすめることを目指しています。ESD 実施計画改定に関する ESD 円卓会議での課題提起や、SDGs実施指針の改定など様々な機会を活用し、他団体とも協力して、教育政策への提案を行いました。

重点方針5については、財政基盤の安定を目指しています。新教材『プラスチックごみ』作成のための資金をクラウドファンディングで募集し、約100万円を募ることができました。そのほか、新しい財源確保のための協議を進めることができました。

参加を重視した事業運営

また、年度当初に計画した6つの領域「Ⅰ. ネットワーク事業」「Ⅱ. 実践・研究事業」「Ⅲ. 情報・出版事業」「Ⅳ. 人材育成事業」「Ⅴ. 政策提言事業」「Ⅵ. その他の事業」においては、概ね事業計画通りに各種事業を実施することができました。

参加を重視するという点では、ウェブにも掲載している『「みんなの参加」のための DEAR の取組』にもあるように、あらゆる人々が安心して参加するための学びの場づくりをすすめています。

具体的には、講座やセミナーにおいて難聴者のための要約筆記や視覚障害を持つ会員には、会報や機関誌のテキストを毎回データで送付しています。このような取組を広く伝え、他団体へも伝えていきたいと思えます。

尚、各事業にかかわったメンバーについては、p.13～14をご覧ください。

2. 各種事業報告

I. ネットワーク事業

ネットワーク事業は、国内外の開発教育及びESD関係者と実践経験を共有し、開発教育の普及、深化をはかることを目的としている。今年度は、オンラインでプログラムを実施し、担い手との連携・強化を図った。

1)国内ネットワーク事業

地域の開発教育の担い手とのネットワーク維持・強

化につとめた。

『「地域・学びあい・入門セミナー」～地域活動をふりかえり、学びあい、深め合う2日間～』(2019年度に実施)への参加団体を中心に、各地域の活動のフォローアップとともに、さらなる研修を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、オンラインの形でプログラムを実施した。本事業に参加した団体を中心に、各団体、個人がどのように地域に向き合い、持続可能な地域づくりのための学びあいをコーディネートしてきたのか、じっくり共有する機会を設けることができた。

① オンラインプログラムの実施

<概要>

●6月20日 13:00～17:30 オンライン交流会(13団体・15名)

●10月3日 13:30～17:30 オンライン学びあい(14団体・16名)

●12月6日 14:00～17:00 オンライン学びあい(13団体・15名)

●2月6日 13:00～17:00 学びあいフォーラム(25団体・30名)

会場:すべて zoom ミーティングでの実施

助成:地球環境基金



② コーディネーター会議の開催(全11回)

年間および次年度計画の検討・確認、プログラム内容の検討および実施、各チームのタスク確認及び進捗共有、報告書の作成、事業のふりかえりを実施した。

③ 各チーム会議の開催(全22回)

オンラインプログラムの検討、2019年度研修実施後の参加団体に対するフォローアップ、地域での実践事例報告ブログの作成依頼・掲載、事業ふりかえりの準備・実施を、チームに分かれて行った。

④ 『持続可能な社会・地域づくりのための学びあいフォーラム 2020～「持続可能な開発を促進する

教育・学習」コーディネーター研修事業～報告・実践事例集 & ふりかえり』

<概要>

発行: 開発教育協会

発行日: 2021年3月31日

体裁: A4判 104ページ



2) 海外ネットワーク事業

① ASPBAEの団体会員との交流

DEARが団体会員になっているアジア南太平洋基礎・成人教育協会(ASPBAE/アスベ)と情報共有と経験共有を行った。

② Bridge47への参加

伊藤容子職員が、Bridge47主催の以下の研修会に2019年から約半年間参加した。各国のGCE等実践団体との実践共有やを通じて、ネットワークの構築につながった。

<概要>

Transformative Learning Journey (全3回)

日時: 2019年10月～2020年5月 (3回目はオンラインで5回に分けて実施)

II. 実践・研究事業

開発教育の研究実践活動の質的な深化や向上に向けて、関連する教育的課題や今日的課題などに関する調査研究活動を行った。機関誌は「気候変動と私たち」をテーマに特集を組んだ。

1) 「開発教育研究会」

① 「SDGsと開発教育研究」部会

SDGsが明記されている「2030アジェンダ」全体の理念を追求しつつ、それらに基づいた学習を培うことを目的に、ハンドブックを作成。またSDGs学習の実践事例収集も行った。d-labの分科会では気候変動をテーマに取り上げ、教育で取り組む目的について参加者と考えた。

<『SDGs 学習のつくりかた 開発教育実践ハンドブックⅡ』の作成・発行> 詳細は、p.5参照。

<研究会の開催(全14回)>

ハンドブックの内容の検討および編集・発行、d-lab(全国研究集会)の分科会の内容の検討を行った。

② 「開発教育ファシリテーション研究」部会

研究会として、開発教育のファシリテーションについて知見を共有し、論点を整理してきた。研究会は、2020年度10回開催した。

9月～11月にかけて全6回の「開発教育ファシリテーション講座2020」を実施した。(p.7参照)

その後、参加者へのヒアリングを行い、今後の講座への反映や、開発教育のファシリテーションについて議論を深めている。

2) 機関誌『開発教育』の編集発行

機関誌『開発教育』第67号を発行した。特集は「気候危機と私たち」とした。気候変動は、緊急性の高い課題として世界で認識されており、被害や影響が特に社会的に弱い立場に置かれている人々に集中している実態を踏まえ、危機感を持って取り組む必要があると考えた。気候変動のメカニズムや、その被害や影響、地域や学校教育における実践などについて、理論編や実践編、インタビューなどを掲載している。

<概要>

タイトル: 機関誌『開発教育』第67号

特集: 「気候危機と私たち」

発行: 2020年12月10日

発行部数: 900部

価格: 2,000円(+税)

※本誌の特集に寄稿いただいた高橋氏と羽角氏は、2021年2月のd-lab2020分科会に登壇いただいた。

「機関誌を読む会」は5月以降に開催予定。



3) d-lab2020(第38回開発教育全国研究集会)の開催

38回目となる今回は、開催地を沖縄とし、全体テーマを「ぬちどう宝を育む学び」とした。ワークショップ(6コマ)、全体会(テーマ: ぬちどう宝を育む学び)、自主ラウンドテーブル(10コマ)、実践事例・研究報告(8コマ)、分科会(6コマ)、オンラインツアーを通して、開発教育・ESD・国際理解教育等に関わる実践者の経験交流・意見交換を中心に据えながら、議論を深めた。全体会では、ゲストに伊是名夏子氏(コラムニスト)と根間広人氏(NPO法人沖縄ハンズオン)、玉城直美氏(沖縄キリスト教学院大学)をお呼びし、「ぬちどう宝」をテーマに沖縄の文化や歴史、社会問題、教育について議論した。

NPO法人沖縄NGOセンター(ONC)や沖縄で開発教育等に取り組む実行委員メンバーと共に、1年か

けてお互いの活動の理解を深めながら準備をした。オンラインでの開催となったが、沖縄からの課題提起を中心に、全国や海外からの参加者と持続可能な社会や教育について議論を交わすことができた。

<概要>

日程:2021年2月20日(土)~23日(火・祝)

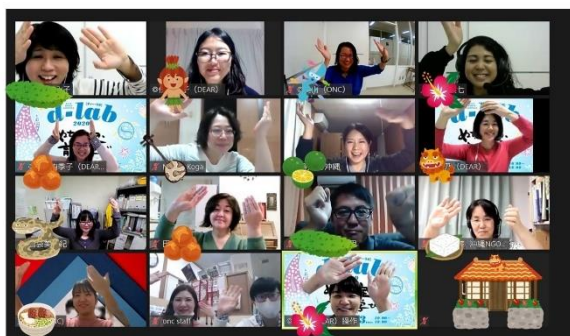
会場:オンライン開催

参加者数:183名(関係者を含む)

主催:d-lab2020 実行委員会、(特活)開発教育協会、(特活)沖縄 NGO センター

助成:(一財)日本国際協力システム

後援:文部科学省、外務省、環境省、消費者庁、国際協力機構、沖縄県教育委員会、国連広報センター、ESD 活動支援センター、(株)沖縄タイムス社、(株)琉球新報社、(一社)SDGs 市民社会ネットワーク、(特活)関西 NGO 協議会、(特活)国際協力 NGO センター、(一財)自治体国際化協会、(公社)青年海外協力協会(JOCA 沖縄)、(公財)ユネスコ・アジア文センター



また、沖縄における企業やメディアと教育関係者とSDGsの教育に関する連携を図ることを目的に以下のフォーラムを開催した。引き続き、沖縄におけるSDGsに関する教育の推進のために、活動を支援していく。

<SDGs教育広報連携フォーラム>

日時:2021年3月2日(火)14:00~17:00

会場:zoom

参加者数:約60名

共催:(特活)開発教育協会、(特活)沖縄 NGO センター

助成:(一財)日本国際協力システム

内容:メディアや沖縄県がすすめるSDGsに関する事業の報告、グループでどのように連携できるかの話し合い。

Ⅲ. 情報・出版事業

新規教材等の作成・増刷、ウェブサイトや SNS を活用した情報発信を行った。

1) 新規教材図書の企画編集と制作発行

開発教育に関連する次のような新規の教材や図書の、企画編集や制作発行や増刷をおこなった。またそのために、引き続きその財源の確保に努めた。

① グローバルエクスプレス第22号『新型コロナウイルス感染症とわたしたち』

グローバルに感染が広がる新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について、自分の気持ちを整理したり、経緯をふりかえったり、様々な 이슈との関連性を確認するなどして、話し合うことをねらいとして発行した。4つのアクティビティを収録している。

発行から10か月で約1,200件のダウンロード申込があった。

発行:開発教育協会

発行日:2020年4月15日

判型・頁数:A4判・13頁

(日本語・英語)

価格:無料ダウンロード



② 『パーム油のはなし2—知る・考える・やってみる!熱帯林とわたしたち』

アブラヤシ・プランテーションおよびパーム油の生産・加工・流通・消費過程と、そこで起こっている社会問題を知ること、問題解決のための行動への動機づけを行うことを目的に発行した。

NGOのネットワーク組織であるプランテーション・ウオッチと3年間かけて共同制作した。

発行:開発教育協会、プランテーション・ウオッチ

発行日:2020年7月

判型・頁数:A4判・48頁

発行部数:800部

価格:2,000円(+税)



③ 『プラスチックごみ—開発教育アクティビティ集4』

「プラスチックごみ」をテーマに一人ひとりが問題に向き合い、公正で持続可能な社会の在り方を考えることをねらいとして発行した。準備が簡単で、様々なテーマにつなげて展開したり、応用したりしやすい6つのアクティビティを収録している。

発行:開発教育協会

発行日:2021年11月15日

判型・頁数:A4判・52頁
発行部数:1,500部
価格:1,500円(+税)

④『SDGs 学習のつくりかた 開発教育実践ハンドブックⅡ』

SDGs ゴール理解を主たる目的とするのではなく、SDGs が明記されている「2030 アジェンダ」全体の理念を追求しつつ、それらに基づいた学習を培うことを目的に発行した。

企画・編集:SDGs と開発教育研究会

発行:開発教育協会

発行日:2021年3月1日

判型・頁数:A4判・96頁

発行部数:1,000部

価格:2,500円(+税)



⑤その他図書教材の編集企画・編集協力

既存の教材で在庫が少ない以下の教材の改訂増刷発行を行った。

<改訂増刷発行>

『コーヒーカップの向こう側』

発行:開発教育協会

発行日:2021年2月

発行部数:1,000部

全項にわたるデータ更新、写真付録を紙での添付からデータ・ダウンロード形式に変更した。



2) 出版物販売

当会発行の教材・図書資料をインターネット等を通じて販売した他、関係団体の発行図書を受託販売、教材カタログやAmazonなどの販路で販売を行い自己財源の強化を図った。

<書籍売り上げベスト5>

第1位 『ワークショップ版世界がもし100人の村だったら 第6版』 749冊

第2位 『新・貿易ゲーム』 357冊

第3位 『気候変動ー開発教育アクティビティ集3』 242冊

第4位 『基本アクティビティ集1 世界とのつながり』 230冊

第5位 『プラスチックごみー開発教育アクティビティ集4』 203冊

3) 広報資料作成

①ウェブサイトの運営

開発教育ポータルサイトとしてウェブサイトでの情報発信を行った。よく読まれているのは「教材」「イベント」「参加型学習」関連のページである。

- ・ 93,184 セッション 前年: 87,472
- ・ 215,533 ページビュー 前年: 222,910
- ・ 平均サイト滞在時間 02:20分 前年: 02:21分
- ・ 新規セッション率 86% 前年: 84.7%
- ・ PC ユーザー 54% 前年: 48%
- ・ モバイルユーザー 46% 前年: 52%

②DEAR プラットフォームの運営

<http://platform.dear.or.jp/>

「学びあいフォーラム」事業の一環で、全国の開発教育の団体や実践、リソースを紹介するウェブサイト を 2019年6月に開設した。

- ・ 4,194 セッション 前年: 3,202
- ・ 10,854 ページビュー 前年: 8,264
- ・ 平均サイト滞在時間 01:33分 前年: 01:24分
- ・ 新規セッション率 89.1% 前年: 88.4%
- ・ PC ユーザー 55% 前年: 50%
- ・ モバイル 45% 前年: 50%

③スタッフ・ブログの運営

<http://dearstaff.blogspot.com/>

講師派遣レポートや事務局の日常業務等を不定期に掲載している。よく読まれているのは、講師派遣レポートである。

- ・ 投稿記事:25本 前年: 40本
- ・ 14,683セッション 前年: 11,351
- ・ 24,010ページビュー 前年: 20,000
- ・ 1.64平均ページビュー 前年: 1.76
- ・ 新規セッション率88.8% 前年: 87.3%

④Facebookページの運営

<https://www.facebook.com/ngoDEAR/>

2013年8月に全研広報用に開始し、9月末に公式 Facebook ページとしてリニューアルした。主催イベントや教材の紹介のほか、開発教育や国際協力に関連するニュースも配信している。社会課題を扱った記事や、教材・イベントに関する記事への反響があるが、ユーザーの変化により、閲覧数は昨年来減少傾向にある。

- ・3月末の「いいね！」数:3,627(前年比+162)。

⑤メールマガジンの発行



<https://www.mag2.com/m/0000270703>

毎月1回のメールマガジンの発行を開始し、主催事業や資料の情報を発信した。3月末現在3,759名(前年比+211名)が登録している。

⑥ツイッターの運営



<https://twitter.com/ngoDEAR>

2011年11月16日にツイッターを導入(アカウント名は@ngoDEAR)。イベント情報や教材関連情報を中心にツイートしている。3月のフォロワー数:1,325(前年比+227)。

⑦noteの運営



<https://note.mu/ngodear>

ニューズレター・チームの発案により2018年10月からページを開設し、ニューズレターや機関誌の記事を不定期に公開している。また、逝去された方の原稿や講演録も掲載している。

ページビューは4,712件(昨年2,067件)、スキは45件(昨年36件)、記事購入者は7件(@100円/昨年6件)。

⑧資料請求者への対応

ウェブサイト上から無料での資料請求を実施した。ウェブリニューアルによりボタンが分かりやすくなり、請求数は昨年来増加している。全国から請求があり、110件(前年146件)。うち7名(前年13名)の新入会があった。

⑨PR TIMESの利用

2018年度よりプレスリリース一括配信サービスPR TIMESの無償提供プロジェクトに参加登録している。不定期で教材発行やイベント情報を掲載している。複数のウェブメディア等に配信されるため、露出効果が高い。

IV. 人材育成事業

開発教育の実践者を支援し、増やすために、講師派遣事業や各種講座を行った。特に、アクティブラーニング、SDGsについて、ファシリテーター養成など、多様なニーズに対応した。

1) 講師派遣事業

政府機関・自治体・教育委員会・学校・大学・自治体国際化協会・NGOなどからの講師派遣依頼に対

して、DEARの役職員等を講師として計30件60回派遣した。述べ参加者は約2,000名。

COVID-19感染拡大防止のため、オンラインでの対応をすすめ、対面希望の場合は、断らざるを得なかった。依頼先は大学やNGO、JICAなどが多く、内容は各種ワークショップの他、気候変動やSDGsをテーマにしたものなどが多かった。詳細は資料編(p.17)を参照。

2) 開発教育ファシリテーション講座

開発教育ファシリテーション研究会の研究をもとに、全6回の「開発教育ファシリテーション講座」をオンラインで開催し、19名が参加した。

参加者とともにメンバーも学び、「開発教育ファシリテーション講座」の枠組みができたことで、今後の議論・研究の土台ができたといえる。

<概要>

日程:9月~11月 毎週日曜日 全6回

会場:オンラインにて開催

参加者:19名

各回のテーマ:

第1回 9月27日 私とファシリテーション

第2回 10月4日 開発教育の教材の体験~教材体験を通して、ファシリテーションを考える

第3回 10月11日 感情やニーズ、開発教育観を聴く~共感・問いかけ・パラフレーズ

第4回 10月25日 自分とみんなの参加~開発問題では避けられない!〈合意形成や意思決定〉プロセスから

第5回 11月1日 思いや考えを引き出す「問い」~テーマへ、私自身へ~

第6回 11月8日 実践とファシリテーションをふりかえる~聴く力、問う力をつかって/修了式

3) 教材体験フェスタ 2020

COVID-19の感染拡大の影響で2020年3月に予定していた対面開催は中止となったが、2020年11月に全面オンラインで開催した。

<概要>

日程:2020年11月18日(水)、21日(土)~22日(日)

会場:オンラインにて開催

後援:文部科学省

参加者数(関係者除く):95名

内容:田中治彦氏によるオンライン特別講座「SDGs時代の開発教育」をはじめ、新教材である「プラスチックごみー開発教育アクティビティ集4」など、

DEARの教材を使った8つのワークショップを実施した。オンラインで開催したことで、全国の地域や海外からの参加者もあった。

4) 各種講座

①「開発教育入門講座」

開発教育の基礎的理解を目的とした入門講座を2020年5月より全面オンラインで開催した。毎月1回、計11回(11月は教材体験フェスタ、2021年2月はd-labで実施)、約180名の参加者を得て開催した。

9回の講座のうち2回は特別編として、「気候変動」(10月)、「もっと話そう! エネルギーと原発のこと」(2021年2月)を実施した。

②教材体験ワークショップ(全4回)

DEAR発行の開発教育教材の中から、4つの教材を選びました。6~9月の月1回ずつ、オンライン(zoomミーティング利用)で実施した。全国各地・海外から参加があった。参加者には教材注文時に送料無料の特典をつけた。

<1回目(6月)>

日時:2020年6月17日(水)

教材:グローバルエクスプレス第22号「新型コロナウイルス感染症とわたしたち」

参加者:18名

<2回目(7月)>

日時:2020年7月6日(月)

教材:「気候変動」

参加者:22名

<3回目(8月)>

日時:2020年8月27日(木)

教材:「スマホから考える世界・わたし・SDGs」

参加者:23名

<4回目(9月)>

日時:2020年9月29日(火)

教材:「パーム油のはなし2」

参加者:16名

③教材発行記念セミナー「知る・考える・やってみる! 熱帯林とわたしたち」

新教材『パーム油のはなし2』発行を記念して、教材に収録された写真や新聞記事などのリソースを提供して下さったゲストを交え、プランテーション・ウォッチと共催で開催した。

<概要>

日時:2020年7月29日(水)

会場:オンライン(zoom ウェビナー)

ゲスト:井田徹治(共同通信編集委員)、関口伸一(海

城中学高等学校・生物担当教員)、黒田峻平(大学生・ボルネオ保全学生グループ)、中村涼夏(大学生・フライデーズ・フォー・フューチャー鹿児島)

参加者:約100名

④海外報告トークイベント1「英国・トットネスは持続可能な社会をめざす人たちの“聖地”か?」

トランジションタウンの英国・トットネスに家族とともに約10ヶ月間滞在した石川氏が見た“実際”をお話しいただいた。

<概要>

日時:2020年10月29日(木)

会場:オンライン(zoom ウェビナー)

ゲスト:石川一喜(拓殖大学国際学部准教授)

参加者:56名

⑤海外報告トークイベント2「平等と民主主義の国? デンマークから考えるアクティビズムと市民参加」

デンマークの大学院で教育人類学を学んだ小口瑛子前職員にデンマークの教育や社会についてお話しいただいた。

<概要>

日時:2020年11月7日(土)

会場:オンライン(zoom ミーティング)

ゲスト:小口瑛子(学校職員/元 DEAR 職員)

参加者:32名

V.政策提言事業

中期重点方針4にもあるように、SDG4.7だけでなく、SDG4を中心に、開発教育やESD実施のための提案をほかの市民団体やネットワークと連携・協力しながら進めた。

1) 行政に対する政策提言

①国際協力政策・援助政策に対する政策提言

SDGs市民社会ネットワークの教育ワーキンググループの国内担当になることで、特に国内の教育問題に関するSDGs政策への提言を行うことができた。

特に日本政府が作成する「SDGsアクションプラン2021」に教育分野において提案したいいくつかのことが反映された。

- ・ 外国人児童生徒等への教育の充実
- ・ 特別なニーズに対応した教育の推進
- ・ コミュニケーション手段の多様化を踏まえた子どもの人権問題への対応の推進

- ・ 新学習指導要領を踏まえた持続可能な開発のための教育(ESD)の推進、等

②教育行政・教育政策に関する政策提言

国連ではGAP(Global Action Program)の後継プログラムとして「ESDfor2030」が策定された。国内の実実施計画の改訂のために、ESD 円卓会議がオンラインで開催され、上條顧問が委員として出席し提案書を提出した。

＜持続可能な開発のための教育円卓会議＞

第1回

日時:2020年12月10日(木)

内容:ESDに関する最新の動向について(報告)

- ・ESD 国内実施計画の改訂について(討議)
- ・その他

第2回

日時:2021年2月2日(火)

内容:・ESD 国内実施計画の改訂について(討議)

- ・その他

2)キャンペーンへの協力

①教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)主催「SDG4教育キャンペーン 2020」への協力

基礎教育を受けられない子どもたちや非識字の人々が世界中に多くいる現状に目を向け教育の大切さを世界中で同じ時期に考える、グローバルなキャンペーン。2016年度よりSDG4(教育目標)達成を目標に掲げている。

＜概要＞

日程:2020年4月1日～5月31日

協力内容:事務局を担当し、会議運営、広報、会計、教材作成、政党アンケート実施、ロビイングなどを実行員会メンバーと協力して実施した。

参加者数:オンライン投票に2,559名の子ども・ユース・市民が参加した。

VI.その他の事業

1)受託事業

①外務省「NGO相談員プログラム」

外務省より標記プログラムを受託し、関東圏を中心に全国から開発教育や国際協力に関する幅広い相談を917件受けた。出張サービスは関東圏を中心に3件行った。また、SNSを通じて相談員制度に関する情報発信も行い、約14,001件のリーチ数であった。

②JICA NGO等提案型研修

JICAより標記プログラムを受託し、NGOや開発教育を推進する市民団体の組織強化、ネットワーク強化のための「SDGs達成に向けたステップアップセミナー～開発教育実践者、SDGsファシリテーターの育成」事業を実施した。

具体的には、沖縄、東北におけるセミナーを開催し、沖縄では「学びの会」として実施した。

＜セミナー概要:沖縄＞

沖縄SDGs教材づくり実践セミナー

- ・2020年4月24日 第1回「新型コロナウイルスと私たち」
- ・2020年6月5日 第2回「開発教育入門講座～パーム油のはなし」
- ・2020年7月31日 第3回「世界のウチナーンチュ・沖縄移民」
- ・2020年8月28日 第4回「多文化共生～コロナ禍で出会い、生まれたコト」
- ・2020年9月25日 第5回「水に流せない水のはなし」
- ・2020年11月27日 第6回「すいまーる・南の島の水とくらし」
- ・2020年12月24日 第7回「のぞいてみよう～街なかマングローブ、生き物、人のくらし」
- ・2021年1月16日 第8回「伊江島・土地闘争の非暴力の闘い方から、現代の私たちは何が学べるか」

＜セミナー概要:東北＞

SDGs教材づくり実践セミナー(東北)

- ・2020年12月11日(金) 第1回「秋田と世界をつなぐ国際協力～失敗からの学び」

③聖心グローバルプラザ内「BE*hive」

聖心女子大学グローバルプラザ内に設置された展示・ワークショップスペース「BE*hive(ビー・ハイベ)」の展示を活用したワークショップの企画・運営等を行った。

＜概要＞

聖心グローバルプラザ「BE*hive」

主管:聖心グローバル共生研究所

＜業務内容＞

A.展示企画

- ・企画の構想協力・教育的な視点の付加

B.ワークショップの企画

- ・展示を使ったワークショップの企画

- ・ワークシート・プレゼン資料の作成
- ・ワークショップ進行案・実施後のふりかえり・ワークショップの改善

C.ワークショップの実施

- ・ワークショップ実施回数:5回(うち聖心女子大学学生向け2回)
- ・参加合計数:約100名(うち聖心女子大学基礎課程演習参加者約20名)

④N高オンラインワークショップ作成

学校法人角川ドワンゴ学園より標記プログラムを受託し、N高等学校の中高生を対象としたワークショップ作成と連続ワークショップ「私も社会を変えられる？」の企画・運営を行った。

2)外部団体との共催・協力事業

①2020年度開発教育・国際教育セミナー

＜主管:DEAR大阪＞

(公財)大阪国際交流センター、(独)国際協力機構関西国際センターが共催する、開発教育に関する基礎的理解を目的とした連続セミナーの企画・開催に協力した。

＜開催実績＞

日程:2021年3月7日(日)

プログラム:ワークショップ『豊かさの開発』

会場:オンライン

共催:(公財)大阪国際交流センター、(公財)大阪府国際交流財団、(独)国際協力機構関西国際センター

協力:DEAR大阪

講師:佐藤友紀(DEAR)

参加者数:30名

②CrimeInfo 教材作成への協力

死刑制度を含む日本の刑事司法制度に対する理解を高める活動を行うNPO法人CrimeInfoの作成する刑事施設をテーマにした教材についての内容や進め方、編集などに関して協力した。

2021年7月発行を目指し、協力して教材作成を行う。

3. 組織運営に関する報告

1)会報「DEAR ニュース」の編集発行

開発教育の関連情報をはじめ、DEARや各地の「担い手」などの活動状況を紹介することを目的とした会報を5回(4・6・8・10・2月)、各号1,000部を発行した。200号(2月)より、表紙デザインをリニューアルした。

ルした。

また、過去掲載の記事の一部をウェブメディアの「note」に公開し、会員以外の方にも読めるようにした(1記事100円の有料配信)。



＜発行実績＞

- ・ 第196号(発行:4月1日) 特集「東京五輪は日本の持続可能な木材調達にレガシーを残せるのか」坂本有希(地球・人間環境フォーラム)
- ・ 第197号(発行:6月1日) 特集「プラスチックごみ問題が問いかけるもの」奥村勇斗(アジア太平洋資料センター)
- ・ 第198号(発行:8月1日) 特集「ニュージーランド国民投票 制度の概要と日本法への示唆」南部義典(国民投票総研代表)
- ・ 第199号(発行:10月1日) 特集教材発行セミナー報告—知る・考える・やってみる! 熱帯林とわたしたち
- ・ 第200号(発行:2月1日) 特集「SDGs後の世界は持続可能なのか?『SDGsを学ぶこと』の死角と課題を考える」湯本浩之(宇都宮大学教員・DEAR代表理事)

2)サポーターの募集

継続的に DEAR をサポートしてくれる人を増やし、組織強化につなげるために、2014年12月よりサポーター制度(年4,000円以上の定額寄付制度)を開始し、募集をすすめている。今年度は、過去会員や研修会参加者、書籍購入者にメール DM を送り、サポーターへの依頼を行った。

3)クラウドファンディングの実施

教材『プラスチックごみ』作成のための費用をクラウドファンディングで集め、200名の方から1,076,500円を募ることができた。クラウドファンディングは前年に続き2回目となったが、今まで DEAR を知らない方も多く寄付して下さったことから、教材の広報としても成果があった。今後も実施していきたい。

教材『プラスチックごみ』クラウドファンディング

実施期間:2020年7月16日～2020年8月31日

目標金額:70万円

媒体:syncable(シンカブル)

寄付数:200名

合計:1,076,500円

以上

処務の概要

1) 会員に関する事項

2021年3月末現在の会員数は、次の通り。ただし、括弧内は昨年末比の数字。

- 正会員 団体 19団体(−2団体)
個人 392名(−12名)
- 賛助会員 団体 19団体(+2団体)
個人 247名(+11名)
(内学生会員:14名/−6名)
- <参考> 団体会員 38団体(−1団体)
個人会員 639名(−1名)



2) 役員に関する事項

註: 役員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです。

●代表理事

湯本浩之(宇都宮大学)

●副代表理事

近藤牧子(大学非常勤講師)

佐藤友紀(高校教員)

●常任理事

阿部秀樹(会社員)

阿部真理子(認定NPO法人IVY)

前嶋 葵(NPO法人コモンビート)

松倉紗野香(中学校教員)

●理事

片岡麻里(公益社団法人ガールスカウト日本連盟)

坂口和隆(認定NPO法人シャプラニール=市民による海外協力の会)

田中治彦(上智大学)

奈良崎文乃(公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン)

三宅隆史(公益社団法人シャンティ国際ボランティア会/教育協力NGOネットワーク)

三輪敦子(一般財団法人アジア・太平洋人権情報センター)

本山 明(大学講師)

中村絵乃(認定NPO法人開発教育協会)

●監事

岩崎裕保(NPO法人関西NGO協議会)

山崎唯司(団体役員)

●顧問

上條直美(公益財団法人日本YMCA同盟)

●評議員

青山由衣(公務員)

秋山映美(NPO法人監獄人権センター)

石川一喜(拓殖大学)

枝木美香(認定NPO法人アークス仏教国際協力ネットワーク)

岡 秀樹(志のぶ幼稚園)

甲斐田万智子(認定NPO法人子ども権利センター)

重田康博(宇都宮大学)

鈴木洋一(Wake Up Japan)

高階悠輔(公益財団法人横浜YMCA)

田中 滋(NPO法人アジア太平洋資料センター)

西川千佳子(マーケティングパートナー)

西平久美子(NPO法人ハンガー・フリー・ワールド)

浜本裕子(YMCA学院高等学校)

林 大介(模擬選挙推進ネットワーク)

古沢広祐(NPO法人「環境・持続社会」研究センター)

星久美子(公益財団法人かながわ国際交流財団)

3) 会員総会に関する事項

2020年度定期会員総会

日時: 2020年5月30日(土)

会場: zoom

<第1部> 13:00~14:30

オンラインワークショップ「グローバル
エクスプレス:新型コロナウイルス感染症
(COVID19)」

<第2部> 15:00~16:00

2020年度定期会員総会

<議案審議>

1) 2019年度事業報告および決算報告について

2) 役員改選について

<報告>

1) 2020年度事業計画および予算について

4) 理事会に関する事項

※全てオンライン(zoom)で実施

●第1回理事会

日時: 2020年5月30日(土) 16:15~17:45

議案:

1. 代表・副代表・常任理事等の選任
2. 各種委員会の設置及び委員選任
3. 他団体への賛同について
4. R-CAMPについて

●第2回理事会

日時: 2020年10月24日(土) 13:00~16:00

議案:

1. 上半期事業報告・決算報告・下半期事業計画
2. 中期計画中間報告
3. COVID-19感染拡大に対する方針・対応
4. 2021年度事業について
5. 地域ネットワークについて
6. 新規事業について(第7回成人教育会議・ジェンダープロジェクト)
7. 第2回 R-CAMPについて

●第3回理事会

日時: 2021年3月6日(土) 13:00~16:00

議案:

1. 2020年度の事業報告・決算見込報告
2. 2021年度事業計画・予算について
3. 次期中期計画

●第4回理事会

日時: 2021年4月24日(土) 13:00~16:00

議案:

1. 2020年度の事業報告・決算報告
2. 2021年度事業計画・予算
3. 地域ネットワーク会議について

5) 評議員会に関する事項

●第1回評議員・理事合同会議

日時: 2020年9月30日(土) 13:00~16:00

会場: zoom

<第1部> DEAR報告

1. 中期方針・中期計画
2. 2020年度前期報告・後期計画

<第2部> ディスカッション: コロナ禍での工夫・DEARへの提案

1. 岡秀樹評議員、鈴木洋一評議員、星久美子評議員から課題提起(COVID-19影響下のなかでの工夫)
2. 質疑応答
3. グループワークディスカッション

<第3部>

懇親会

6) 2020年度事業評価・2021年度計画会議

2020年度の事業評価と、2021年度の事業計画を共有し、議論した。

日時: 2021年2月11日(祝) 13:00~17:00

会場: zoom

議題:

- ・2020年度事業評価
- ・2021年度事業計画

7) 理事合同合宿(R-CAMP)

理事同士が相互に知り合い、DEARの役割を共有しあう場としてR-CAMPを2回、zoomで開催した。

第1回R-CAMP

日時: 2020年7月18日(土) 13:00~17:00

内容:

- ① DEARの歴史と現在地(田中治彦理事、湯本浩之代表理事、上條直美顧問の報告)
- ② グループワーク(DEARらしさとは、ビジョンが共有された世界とは)
- ③ 交流会

第2回R-CAMP

日時: 2021年1月23日(土) 13:00~17:00

内容:

- ① グループワーク: コロナ禍で見えてきた社会課題、開発教育・DEARの役割
- ② グループワーク: 現状共有とこれから

7) 各種委員会に関する事項

本年度は、次のような各種委員会が理事会内に設置され、当会の運営や事業について協議を行った。

(註: 各種委員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

①DEAR大阪運営委員

委員長: 佐藤友紀(高校教員)

委員: 荒川共生(ボルネオ保全トラストジャパン) / 岩崎裕保(DEAR監事) / 大森容子(滋賀県国際協会) / 談儀善弘(高校教員) / 浜本裕子(YMCA学院高等学校) / 榛木恵子(聖和共働福祉会) / 丸山まり子(地球市民フォーラムなら) / 松田道子(神戸YMCA) / 三輪敦子(アジア・太平洋人権情報センター) / 山中信幸(川崎医療福祉大学)

②機関誌「開発教育」編集委員会・査読委員会

青沼由衣(公務員)、岩崎裕保(関西NGO協議会)、小野行雄(高校教員)、上條直美(日本YMCA同盟)、近藤牧子(大学非常勤講師)、佐渡友哲(日本大学)、田中治彦(上智大学)、奈良崎文乃(プラン・インターナショナル・ジャパン)、二ノ宮リムさち(東海大学)、野口扶美子(国連大学)、藤原孝章(同志社女子大学)、三輪敦子(アジア・太平洋人権情報センター)、山中信幸(川崎医療福祉大学)、湯本浩之(宇都宮大学)、中村絵乃・岩岡由季子(DEAR)

8) プロジェクト・チームに関する事項

本年度は、以下のような研究会やプロジェクト・チームが設置され、各事業や活動の企画運営にあたった。

(註: 役員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

<研究会・プロジェクト・チーム>

①SDGs研究会

近藤牧子(大学非常勤講師)、田中治彦(上智大学)、藤原孝章(同志社女子大学)、松倉紗野香(中学校教員)、本山明(大学講師)、湯本浩之(宇都宮大学)、伊藤容子・中村絵乃(DEAR)

②ファシリテーション研究会

阿部真理子(IVY)、上條直美(日本YMCA同盟)、近藤牧子(大学非常勤講師)、榎府暢子(東京大学附属中等教育学校教員)、前嶋葵(コモンビート)、松倉紗野香(中学校教員)、山中信幸(川崎医療福祉大学)、伊藤容子・岩岡由季子・中村絵乃(DEAR)

③d-lab2020(第38回開発教育全国研究集会)実行委員会

池田紘子(JOCA沖縄)、内山直美(南風原町立南風原中学校)、大仲るみ子(多文化ネットワークfuふ! 沖縄)、オジャ ラックスマン(沖縄ネパール友好協会)、金城明子(NPO法人おきなわ環境クラブ)、金城さつき(大学非常勤講師)、古賀徳子(ひめゆり平和祈念資料館)、島袋美由紀(琉球大学博物館(風樹館))、新里聡(国際旅行社)、田名彩子(町の自習室)、根間広人(沖縄ハンズオン)、宮里モラノ・ジュン(沖縄ハンズオン)、屋比久カルロス(コザインターナショナルプラザ(KIP))、屋良真弓(南風原町立南風原小学校)、玉城直美・奥山有希・新膳朋子・佐々木綾菜・仲村明・島袋真七(沖縄NGOセンター(ONC))、中村絵乃・岩岡由季子(DEAR)

④「開発教育入門講座」チーム

福島智子(リーダー/桜美林大学)、大野のどか(カフェオーナー)、小口瑛子(学校職員)、川田雅俊(学校教員)、定光香(会社員)、田中浩平(団体職員)、萩原菜月(大学院生)、宮原契子(団体職員)、岩岡由季子・八木亜紀子(DEAR)

⑤会報「DEARニュース」編集委員会

阿部秀樹(リーダー/会社員)、清水千絵(団体職員)、須磨珠樹(会社員)、滝本雅章(事務局ボランティア)、田中祥一(高校教員)、出口雅子(団体職員)、菊池哲佳(団体職員)、佐藤友梨(会社員)、松下彩(会社員)、中園真由美(教員)、八木亜紀子(DEAR)

⑥「学びあい」コーディネーターチーム

阿部真理子(IVY)、大野のどか(八王子市民のがっこうまなび・つなぐひろば)、上條直美(日本YMCA同盟)、佐藤友紀(高校教員)、関愛(にいがたNGOネットワーク国際教育研究会RING)、南雲勇多(東日本国際大学西あい(学びあい事業コーディネーター))、山西優二(早稲田大学)、伊藤容子・中村絵乃(DEAR)

9) 職員に関する事項

事務局長	中村 絵乃(有給・常勤・専従)
事業主任	八木 亜紀子(有給・常勤・専従)
事業担当	伊藤 容子(有給・常勤・専従)
事業担当	岩岡由季子(有給・常勤・専従)
経理・総務担当	牧 啓太(有給・常勤・専従)
書籍担当	若松 陽子(有給・非常勤・嘱託)

10) インターン・ボランティアに関する事項

今年度に事務局で受け入れを行ったインターン・ボランティアは次の通り。

<事務局ボランティア>

滝本雅章(社会人、2007年11月～継続)

氏井紅葉(学生、2018年8月～継続)

小口佳那子(学生、2020年6月～継続)

川田雅俊(学生、2020年7月～継続)

<フリースペースえん 講師派遣ボランティア>

久保井奈美(社会人)

西脇さやか(劇あそび・表現教育ファシリテーター)

星久美子(元DEAR職員)

谷田なつ美(小学校教員)

また、d-lab2020(第38回開発教育全国研究集会)には8名のボランティア参加があった。

11) 会員団体に関する事項

DEARが会員として参加した団体は次の通り。

<正会員>

- ・ 認定NPO法人国際協力NGOセンター(JANIC)
- ・ 教育協力NGOネットワーク(JNNE)
- ・ 一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク
- ・ アジア南太平洋基礎・成人教育協会(ASPBAE)

<賛助会員>

- ・ NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会

資料編

資料1: メディア掲載・取材協力など

<映画>

①ムクウェゲ 女性にとって世界最悪の場所で闘う医師
制作:TBSテレビ
教材『スマホから考える世界・わたし・SDGs』を使った高校での授業の様子が取材され、生徒2名とDEARスタッフのインタビュー映像が収録されている。

<雑誌>

①市民活動情報誌「ウォロ」No.533
発行:大阪ボランティア協会
特集記事「ゲームで学び、ゲームで交流！」で教材『新・貿易ゲーム』が紹介された。

①月刊誌「授業づくりネットワーク」No.37
発行:学事出版
特集パート2「現場発！コロナ禍のインクルーシブ」にて、教材グローバルエクスプレス 22号『COVID-19とわたしたち』を使った実践が2件掲載された。

③機関誌「自治体国際化フォーラム」378号
発行:自治体国際化協会
事務局長の中村が「開発教育を通して地域の持続可能性を考える」を寄稿した。

<新聞>

①読売新聞朝刊(2020年6月24日)
くらし教育面に教材『グローバルエクスプレス第22号・新型コロナウイルス感染症とわたしたち』が紹介された。

②日本経済新聞(2020年8月12日)
「UPDATE 知の現場」欄に代表理事・湯本浩之の取材記事が掲載された。所属する宇都宮大学での開発教育の実践などが紹介された。

③日本経済新聞(2020年10月19日)
「18歳プラス」欄に、横浜薬科大学への講師派遣と入門講座(毎月開催)への取材記事が掲載された。

④琉球新報(2021年1月31日)
d-lab2020(第38回開発教育全国研究集会)の紹介記事が掲載された。

⑤沖縄タイムス(2021年3月3日)
共催開催した「ひろげる、つなげるSDGsフォーラム」の報告記事が掲載された。

<ウェブメディア>

PR TIMESを通して以下の記事を配信した。

- ①2020年4月「緊急発行！『新型コロナウイルス感染症とわたしたち』無料ダウンロード教材」
- ・ページビュー:8,724件／転載サイト:48件

②2020年5月「オンラインで授業・投票！「SDG4教育キャンペーン 2020(旧:世界一大きな授業)途中経過発表」
 ・ページビュー:3,310件／転載サイト:36件

③2020年5月「オンライン授業での実践報告が続々！『新型コロナウイルス感染症とわたしたち』英語ワークシートも追加」
 ・ページビュー:9,614件／転載サイト:22件

④2020年7月「NGOがワークショップ教材『パーム油のはなし2 知る・考える・やってみる！熱帯林とわたしたち』を発行」
 ・ページビュー:2,294件／転載サイト:28件

⑤2020年7月「SDGsゴール4(教育目標)達成に向けて子ども・ユース代表が政党・国会議員と意見交換します」
 ・ページビュー:2,745件／転載サイト:28件

⑥2020年12月「教材体験フェスタ2020[オンライン・3日間]15の講座とワークショップ！」
 ・ページビュー:1,189件／転載サイト:29件

⑦2020年11月「子ども・ユース代表が5政党・3省庁と面談「SDG4教育キャンペーン2020」実施しました」
 ・ページビュー:1,724件／転載サイト:30件

⑧2020年11月「ワークショップ教材『プラスチックごみ 開発教育アクティビティ集4』発行！」
 ・ページビュー:1,181件／転載サイト:27件

⑨2020年12月「機関誌『開発教育』最新号「気候危機と私たち」発行！」
 ・ページビュー:595件／転載サイト:28件

⑩2020年12月「d-lab2020(第38回開発教育全国研究集会)を沖縄とオンライン開催！」
 ・ページビュー:828件／転載サイト:27件

⑪2021年3月「SDGsの研修や学習プログラムをつくる方に！『SDGs学習のつくりかた 開発教育実践ハンドブックⅡ』発行」
 ・ページビュー:611件／転載サイト:24件

⑫2021年3月「延べ58万人以上が参加しているキャンペーン「SDG4教育キャンペーン2021」参加者募集スタート！」
 ・ページビュー:333件／転載サイト:24件

※転載サイト例：東洋経済オンライン、PRESIDENT Online、朝日新聞デジタル&M、ニコニコニュース、等

以上



資料 2: 「名義後援・協力」の実績一覧 (計 9 件)

<後援名義>

- ①独立行政法人国際協力機構
「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2020」
- ②公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー 関西
セミナーハウス活動センター
「2020 年度 開発教育セミナー」
- ③公益財団法人滋賀県国際協会
「国際教育体験フェア in 滋賀 2020」
- ④NPO法人関西NGO協議会
「ワン・ワールド・フェスティバル
for Youth2020 Online」
- ⑤独立行政法人国際協力機構関西センター
「2020 年度開発教育・国際教育セミナー」

- ⑥公益財団法人滋賀県国際協会
「国際教育ワークショップ 地球市民を地域と
ともに育てよう part19 コロナ禍でさらに追
いつめられる子どもたち～子どもの権利をテ
コに考える」
- ⑦独立行政法人国際協力機構関西センター
「開発教育・国際教育セミナー 豊かさと開発」
- ⑧立正佼成会
「青年の日」

<協力名義>

- ①宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏セン
ター
「第 12 回グローバル教育セミナー グローバル教育
とSDG3 保健医療問題」

資料 3: 他団体への「賛同・協賛」の実績一覧 (計 2 件)

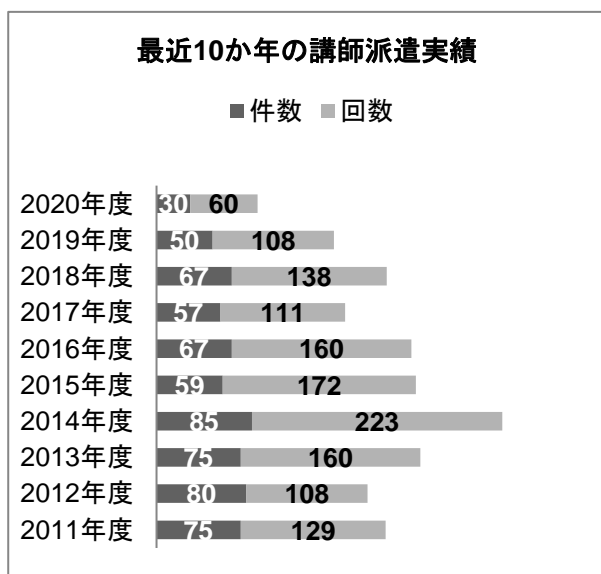
<賛同>

- ①「世界食料デー」月間 2020 みんなで食べ
る幸せを
飢餓や食料問題に取り組む国際機関や
NGO/NPO、企業や教育機関などが、世界食料
デーに向けて実施する企画を相互に協力・広報を
行うことで、1人でも多くの人に飢餓や食料問題に
ついて知ってもらおう。また解決に向けて何ができるの
か考え、行動する機会を提供する。
期間:2020 年 10 月 1 日～31 日

- ②【共同声明】私たち日本の市民社会は、日本政
府に対して、ミャンマー市民の人権を守るためのア
クションを求めます
2021 年 2 月にミャンマー国軍が、クーデター
を起こし「非常事態」が宣言され、市民の人権
や民主主義が再び長期的に阻害される深刻な状
況となっている中で、日本の市民社会から、日
本政府に対して、アクションを求めた。
賛同月日:2021 年 3 月 18 日

以上

資料4:「講師派遣」の実績一覧(計30件60回)



1 「オンラインワークショップ」(2020/5/2/計1回)

主催:(財)日本YMCA同盟
 内容:メディアリテラシー(GE)
 対象:団体・ボランティア・インターン
 派遣者:中村絵乃(事務局長)

2 「ここから世界へ」

(2020/5/28,6/25,7/30,11/5,11/15,11/26,12/10,12/17/計8回)

主催:FUTURE DESIGN
 内容:100人村;その他
 対象:中学生
 派遣者:中村絵乃(事務局長)、岩岡由季子(事務局長)ほか

3 「国際セミナー」(2020/6/13/計4回)

主催:鎌倉女学院中学校・高等学校
 内容:パーム油;コーヒーカップの向こう側
 対象:高校生
 派遣者:伊藤容子(事務局長)、岩岡由季子(事務局長)

4 「早稲田大学・大学院講義「Peace Communication」」(2020/7/2,9,16/計3回)

主催:株式会社アソボット

内容:スマホ、豊かさと開発、教材づくり

対象:大学生

派遣者:中村絵乃(事務局長)、伊藤容子(事務局長)、小口佳那子(ボランティア)

5 「東洋大学生がワークショップで考えるSDGs」(2020/7/11/計1回)

主催:東洋大学 社会貢献センター

内容:SDGsアクティビティ

対象:大学生

派遣者:八木亜紀子(事業主任)

6 「社会薬学1」(2020/7/28/計2回)

主催:横浜薬科大学

内容:スマホ;その他

対象:大学生

派遣者:八木亜紀子(事業主任)

7 「第17回 多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー」(2020/8/4/計1回)

主催:(財)PHD協会

内容:講演(SDGsについて)

対象:教員・教育関係者

派遣者:中村絵乃(事務局長)

8 「オンライン茶話会に向けてのファシリテーター研修」(2020/8/15/計1回)

主催:千葉大学教育学部附属小学校 PTA

内容:グローバル・エクスプレス

対象:小学生および保護者

派遣者:岩岡由季子(事務局長)

9 「東洋大学 ボランティア支援室 セミナー」(2020/8/28/計1回)

主催:東洋大学 社会貢献センター

内容:パーム油

対象:大学生

派遣者:岩岡由季子(事務局長)

10 「SDGs の基本内容の理解」(2020/8/24/計 1 回)

主催:トヨタ紡織株式会社 トヨタ紡織学園

内容:SDGsアクティビティ

対象:企業・会社員

派遣者:八木亜紀子(事業主任)、岩岡由季子(事務局員)

11 「ノートルダム女学院高等学校 高1グローバル英語コース グローバルワークショップ」(2020/8/29/計 1 回)

主催:(財)大阪国際交流センター

内容:100 人村

対象:高校生

派遣者:佐藤友紀(理事)

12 「SDGs を学校で」オンラインセミナー 第 1 回」(2020/8/29/計 1 回)

主催:国際協力機構四国支部

内容:SDGsアクティビティ

対象:教員・教育関係者

派遣者:中村絵乃(事務局長)、八木亜紀子(事業主任)

13 「「SDGs を学校で」オンラインセミナー 第 2 回」(2020/9/5/計 1 回)

主催:国際協力機構四国支部

内容:パーム油;

対象:教員・教育関係者

派遣者:中村絵乃(事務局長)、八木亜紀子(事業主任)

14 「上智大学短期大学部 杉村ゼミ」(2020/10/7/計 1 回)

主催:上智大学 短期大学部

内容:スマホ

対象:大学生

派遣者:伊藤容子(事務局員)

15 「with コロナで生きていく私たちに今、必要なこと」(2020/10/21/計 1 回)

主催:国際交流・国際協力支援団体 CLUB

GEORDIE

内容:グローバルエクスプレス

対象:大学生

派遣者:伊藤容子(事務局員)

16 「日本 YMCA スタッフ研修ステップⅡ講義「地域と世界をつなぐ SDGs ワークショップ」」(2020/10/22/計 1 回)

主催:(財)日本YMCA同盟

内容:グローバルエクスプレス

対象:NGO・団体職員

派遣者:中村絵乃(事務局長)

17 「和歌山県国際交流センター10 月度グローバルセミナー～途上国に寄付をしてみたら PartII～」(2020/10/25/計 1 回)

主催:JICA 関西

内容:SDGsアクティビティ

対象:一般・不特定の市民

派遣者:八木亜紀子(事業主任)

18 「総合的な学習の時間(国際理解)1 回目」(2020/11/6/計 4 回)

主催:千代田区立九段中等教育学校

内容:SDGsアクティビティ

対象:中学生

派遣者:中村絵乃(事務局長)、八木亜紀子(事業主任)、伊藤容子(事務局員)、川口真実(セーブザチルドレン)

19 「オンライン週末研修」(2020/11/10/計 1 回)

主催:公益社団法人 青年海外協力協会

内容:グローバルエクスプレス

対象:団体・ボランティア・インターン

派遣者:八木亜紀子(事業主任)

20 「総合的な学習の時間(国際理解)2 回目」(2020/11/13/計 4 回)

主催:千代田区立九段中等教育学校

内容:SDG4 教育キャンペーン

対象:中学生

派遣者:中村絵乃(事務局長)、八木亜紀子(事業主任)、伊藤容子(事務局員)、川口真実(セーブザチルドレン)

21 「釜山デモクラシーフォーラム 2020」(2020/12/6/計 1 回)

主催:アジア開発同盟(ADA)

内容:講演:日本の ESD・SDGs について

対象:一般・不特定の市民

派遣者:中村絵乃(事務局長)

22 「国際 NGO 論(龍谷大学授業)」(2020/12/16/計 1 回)

主催:(特活)関西 NGO 協議会

内容:スマホ

対象:大学生

派遣者:伊藤容子(事務局員)

23 「JICA 沖縄開発教育支援プログラム」(2021/1/9/計 2 回)

主催:(特活)沖縄 NGO センター

内容:対立解決

対象:一般・不特定の市民

派遣者:中村絵乃(事務局長)

24 「地域国際化ステップアップセミナー」(2021/1/28/計 1 回)

主催:(一財)自治体国際化協会

内容:講演・司会:地域で進める SDGs

対象:一般・不特定の市民

派遣者:中村絵乃(事務局長)

25 「開発教育・国際教育セミナー」(2021/3/7/計 1 回)

主催:JICA 関西

内容:豊かさの開発

対象:教員・教育関係者

派遣者:佐藤友紀(理事)

26 「ともに生きる」

(2020/11/30,12/14,2021/1/20,2/12,3/10/計 6 回)

主催:特定非営利活動法人フリースペースたまりば

内容:プラスチックごみなど

対象:その他

派遣者:中村絵乃(事務局長)岩岡由季子(事務局員)ほか

27 「展示を使ったワークショップ」

(2020/7/8,11/6,12/16,2021/1/21,1/28/計 5 回)

主催:聖心女子大学

内容:気候変動など

対象:大学生

派遣者:岩岡由季子(事務局員)

28 「市民のチカラ、世界とともに！～知識と経験の交換会(全世界編)」(2021/3/18/計 2 回)

主催:(独法)JICA 東京

内容:NGO の教材づくり

対象:一般・不特定の市民

派遣者:中村絵乃(事務局長)、岩岡由季子(事務局員)

29 「ファシリテーション研修」(2021/3/30/計 1 回)

主催:長浜バイオ大学

内容:ファシリテーション

対象:大学生

派遣者:中村絵乃(事務局長)

30 「SDGs トライアル研修(ヤングにぴったしこん)」(2021/3/30/計 1 回)

主催:日清食品ホールディングス株式会社

内容:SDGs アクティビティ

対象:企業・会社員

派遣者:八木亜紀子(事業主任)、岩岡由季子(事務局員)